

1 - 6 2017年の南極域の紫外線

南極昭和基地における2017年の紅斑紫外線量日積算値の月平均値（以降、月平均値という）を図1-13に示す。ここでは、参照値（1994～2008年の月別累年平均値）との比較として、参照値からの差が標準偏差以内のときを「並」、それより大きいときを「多い」、それより小さいときを「少ない」としている。南極昭和基地の月平均値は、オゾンホールが発達する9月以降では参照値よりも少なく推移し、10月と12月は少ない状況であった。特に9月、10月は観測開始（1993年）以来3番目に少なく、12月は2番目に少ない値となった。

南極オゾンホールが存在する期間（8～12月）の南極昭和基地における2017年の紅斑紫外線量日積算値とオゾン全量及び全天日射量の推移を図1-14に示す。紅斑紫外線量日積算値は、9月下旬、10月中旬と下旬、11月下旬以降で参照値（1994～2008年の累年平均値）よりも小さく、概ねオゾン全量の推移（緑丸印）と対応した逆相関を示している。

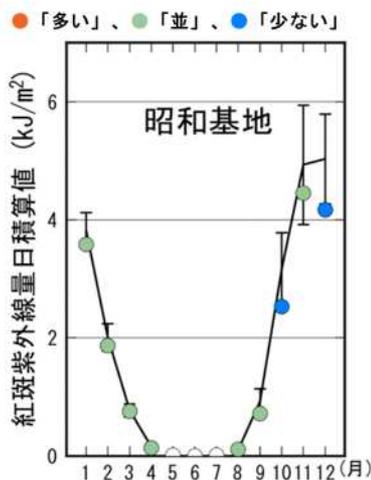


図1-13：2017年の紅斑紫外線量日積算値の月平均値
南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値の月平均値。印（図では緑、青）は2017年の月平均値。実線は1994～2008年の月別累年平均値、縦線はその標準偏差。ただし、極夜前後（5～7月）は月別累年平均値を算出していない。

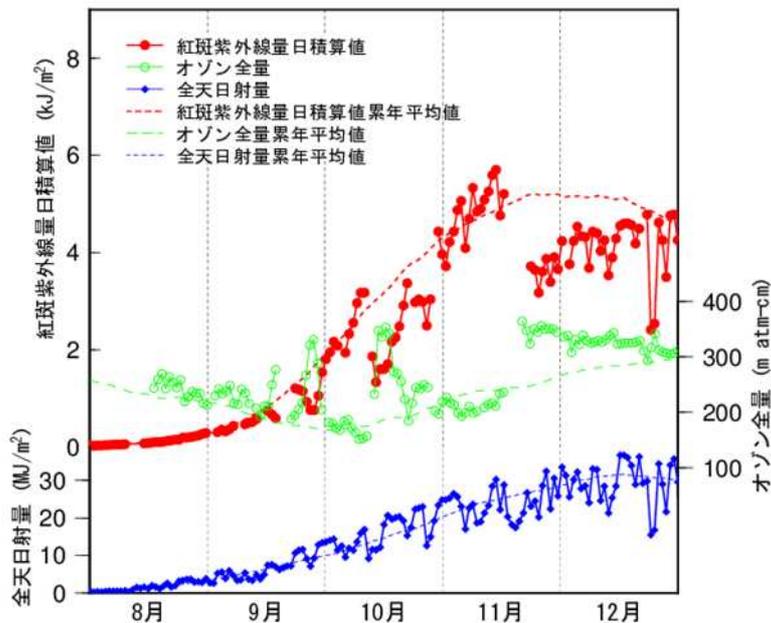


図1-14：2017年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量、全天日射量

2017年の南極昭和基地における紅斑紫外線量日積算値、オゾン全量、全天日射量の観測値（実線）のほか、参照値として、それぞれの要素の1994～2008年の日別累年平均値の15日移動平均値（破線）を示す。